

コラム 技術展示会等の新たな取り組み

効果的な普及活動を効率的に進めるため、土木研究所の開発技術の中から毎年度、適用効果が高く普及が見込める技術を重点普及技術および準重点普及技術として選定するとともに、それらの活用促進方策を検討し、普及戦略としてとりまとめています。

その中の準重点普及技術である土研式釜段（堤防の漏水抑止技術）は、出水時に水防団等が活用することとなる技術であることから、26年度は、新たな取り組みとして、中部地方整備局と連携し、木曽三川連合総合水防演習・広域連携防災訓練において、土研式釜段設置の演習、展示体験エリアにおける資材展示を行いました。演習では、多数の作業員で土のう等を積み上げる従来の釜段に対して、土研式釜段では1名の指揮者と2名の作業員だけで簡単に設置が可能である状況を実際に水防団員等に見ていただくことが出来ました。

また、海外における技術普及等の新たな取り組みとして、ミャンマーのヤンゴン市で開催されたアジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウムにおいて、土木研究所の紹介や水災害・リスクマネジメント国際センター（ICHARM）の活動紹介、RRI モデル（降雨流出氾濫モデル）を用いたミャンマー国内の災害リスク評価行政職員研修プロジェクトなどのパネル展示を行い、広く土木研究所の活動や技術について理解を深めてもらうことができました。



写真-1 水防演習での訓練状況
（土研式釜段）



写真-2 パネル展示の状況
（ミャンマーヤンゴン市）